

## 第二次国府台合戦と千葉氏

16世紀になると関東地方は駿河(静岡県)の今川氏、相模(神奈川県)の後北条氏、甲斐(今の山梨県)の武田氏など戦国大名が争うようになりました。この争いに越後国(新潟県)の上杉氏が加わり、複雑な勢力争いがくりかえされていました。上杉氏は、古河公方内の争いを理由に関東に兵を進め、里見氏などに参加を呼びかけました。呼びかけに応じた里見義弘は、国府台に陣を構えましたが、それを知った北条氏康は、国府台の義弘を攻めました。戦いは、氏康が勝利し、敗れた義弘は再び安房国に逃れました。



里見義弘像 『北条五代記』 東京国立博物館蔵

義弘は義堯の子。上杉謙信と呼応し、太田資正とともに国府台に出陣するが、北条氏綱に敗れる。

岩付城 埼玉県岩槻市  
太田資正の居城。(写真提供:岩槻市)

北条氏康書 西原文書より

西原文書要約

房州衆(里見勢)が5・6百騎、市川に陣取って岩付(岩槻)に兵糧を送ろうとしているが、「値段で折り合いがつかないで遅れている」という報告が江戸衆(高城)よりあった。明日5日当地(小田原)より真足をつけ、腰兵糧が乗馬で出撃するから要員が集まり次第、馬上にて鐘を持ち、明日、昼以前に必ず当地に着陣せよ。

佐貫城 富津市佐貫  
里見義弘の居城。